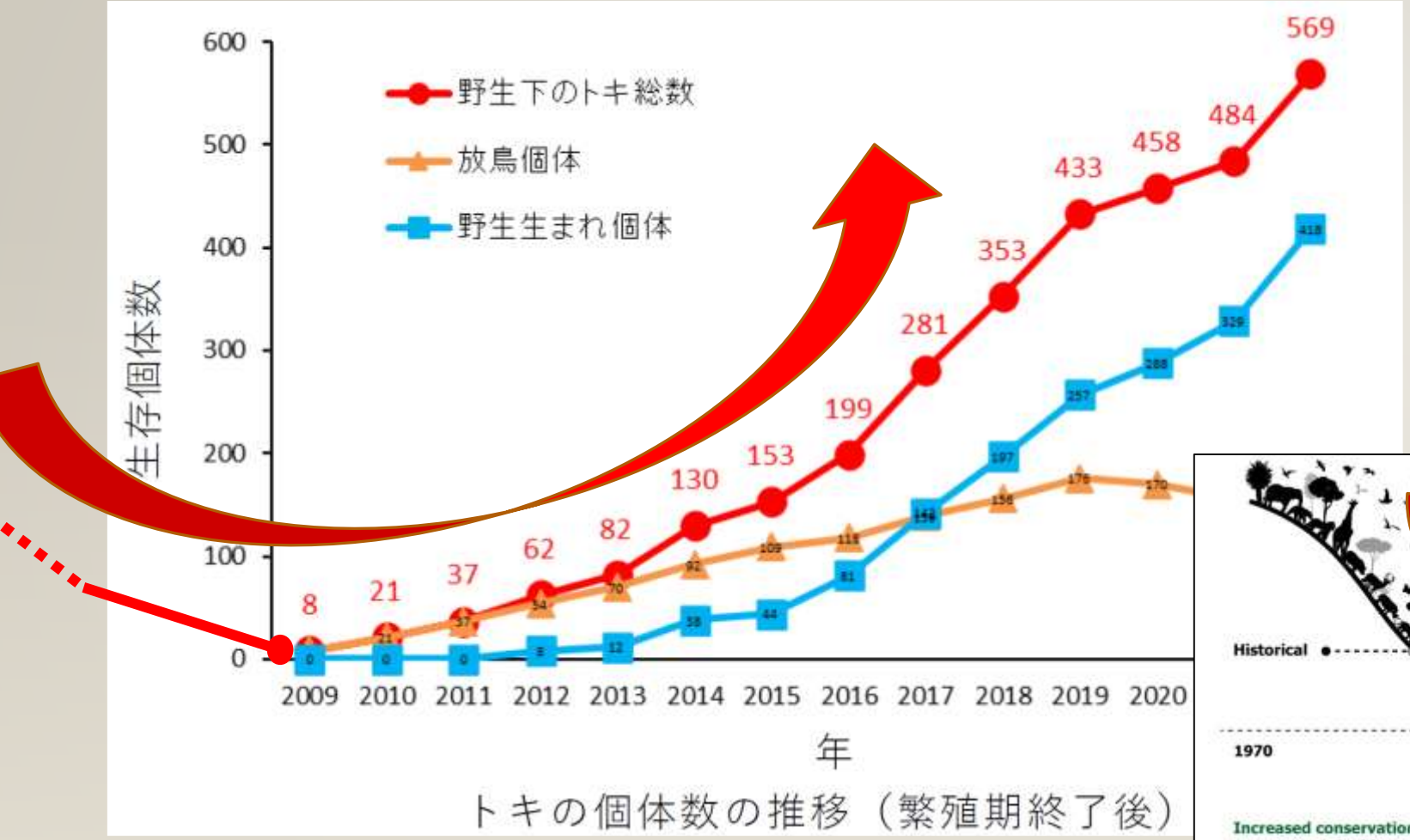
2023年2月16日

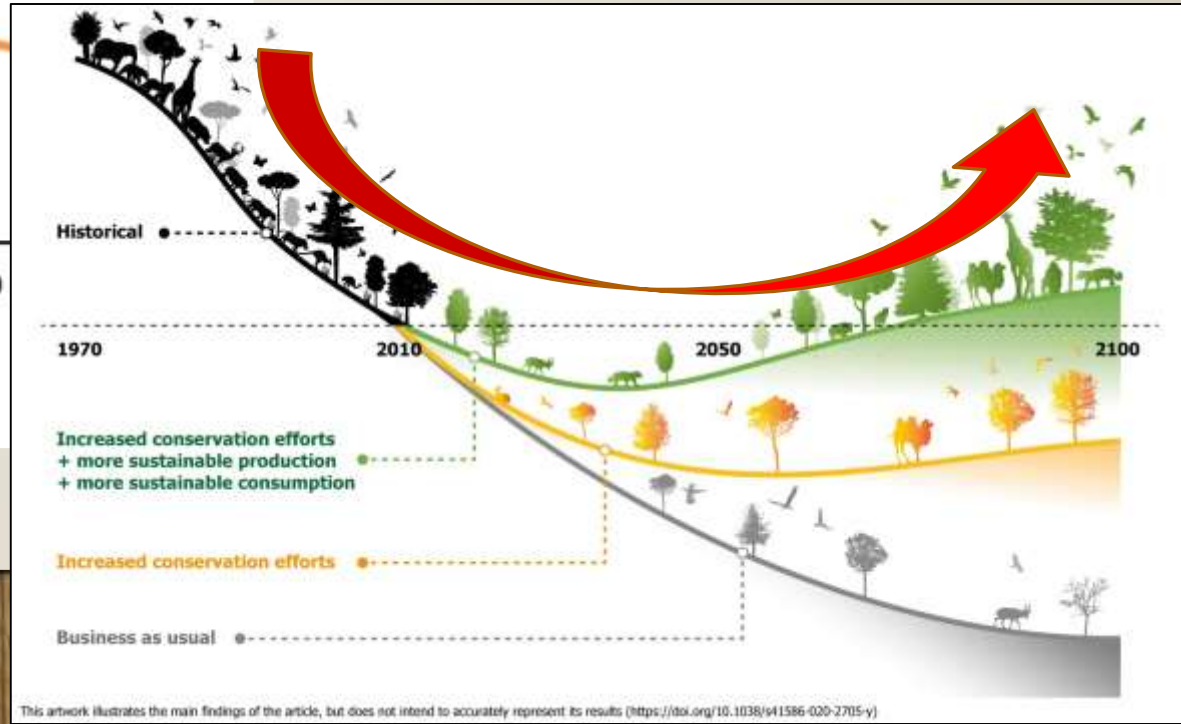
2030生物多様性枠組実現日本会議（J-GBF）
第二回地域連携フォーラム

自然資源を活用した佐渡の農業政策

佐渡市役所農林水産部　副部長　中川　克典

トキと人との共生を実現中！！





トキ個体数↑は、まるでネイチャーポジティブのよう→

右図出典：https://doi.org/10.1038/s41586-020-2705-y

生きものを育む米づくり

朱鷺と暮らす郷づくり認証制度

- 佐渡で栽培されたお米であること
- 「生きものを育む農法」により栽培
- 生きもの調査を年2回実施
- 農薬・化学肥料を削減した栽培（慣行比5割以上減）
- 畦畔に除草剤を散布していない

朱鷺と暮らす郷
詳細はこちら
←

2011年 日本初 世界農業遺産(GIAHS)に認定

認定された農業遺産システム名
「トキと共生する佐渡の里山」

佐渡地域のトキとの共生を目指した「生きものを育む農法」や棚田などの風景、伝統的な農文化などが評価され、2011年、佐渡市は日本で初めて世界農業遺産に認定されました。

※石川県能登地域と同時に認定

生物多様性社会 －次世代への継承（農業を支える仕組み）－

佐渡トキ応援お米プロジェクト

募金総額は約3,000万円となり、更に朱鷺認証米への理解が深まる

ネイチャーポジティブ宣言

令和4年10月23日に開催した第5回佐渡未来講座、ネイチャーポジティブシンポジウムで、ネイチャーポジティブを宣言

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ネイチャーポジティブ佐渡島宣言

今、世界では、カーボンニュートラルに続く国際的な問題として、生物多様性の保全が取り上げられ、「2030年までに生物多様性の減少傾向を食い止め、回復に向かわせる」という地球規模の目標（ネイチャーポジティブ）へのコミットが表明されています。

1981年に野生絶滅したトキを2008年に野生復帰させ、現在569羽にするなど、生物多様性の保全に取り組む佐渡市では、このネイチャーポジティブの実現に向けて、ゼロカーボンアイランドの推進とともに、自然への投資や循環型経済が促進されるよう、次の活動を行います。

1 佐渡市では、保護地域および保護地域以外の場所で生物多様性保全に貢献する場所（OECM）が既に30％を超えているが、今後、さらに拡充させること

2 他地域の生物多様性を減少させる資源の移入・使用について、現状を把握し、削減に努めるとともに、自然環境や生物多様性の保全を発展的に展開することで、新たな産業創出等につなげること

3 トキとの共生を実現した地域として、ネイチャーポジティブに向けた知見・経験を他地域と共有しながら、生物多様性保全のパートナーシップを拡大すること

以上、ここに「ネイチャーポジティブ」を宣言し、地域循環共生圏の創出と安心して暮らし続けられる島づくりを目指して実践することを誓います。

令和4年10月23日

佐渡市長

渡辺竜五

1　保護地域および保護地域以外の場所で生物多様性保全に貢献する場所（OECM）が既に30%を超えているが、今後さらに拡充させる

2　他地域の生物多様性を減少させる資源の移入・使用について、現状を把握し、削減に努めるとともに、自然環境や生物多様性の保全を発展的に展開することで、新たな産業創出等につなげる

3　ネイチャーポジティブに向けた知見・経験を他地域と共有しながら、生物多様性保全のパートナーシップを拡大する

地域循環共生圏の実践 －自立・分散型社会のモデル地域へ－

人と自然との共生

自立・分散型の
再生可能エネルギー
のベストミックス

多様な地域資源
の持続的な活用

持続可能な島づくり

地域経済の好循環

地産地消と食育の
推進

健康寿命日本一へ
誰もが活躍できる島づくり

文化の継承と
集落コミュニティの維持

トキと共生する里山の新たな挑戦 －農業の価値を未来につなぐ－

保育園・学校給食への有機食材を試験的に導入開始※

※ 小中学校は、１か月限定、無農薬無化学肥料栽培米を提供
島内保育園は、継続した提供を開始

トキと共生する里山の新たな挑戦 －農業の価値を未来につなぐ－

◆佐渡版みどりの食料システム戦略の推進◆

【生産面】

- 佐渡米全体の生産性UPをどう牽引できるか
  経営も持続可能な取り組みに
- 省力化技術の推進と導入コストをどう負担するか
  農家の体にもやさしい農業を
- 新規参入者・ネットワーク化による相互支援
  勇気をもって有機を志す人を応援する

【消費・販売面】

- 生きもの目線と「農」「食」「環境」教育の伝承
  保育園、小学校、中学校、高校での体験と教育の実施
- 食・資源の地域循環（地産地消に有機を　＋　）
  自家消費、地域内流通、地域外流通の活性化
- 販売力の強化・有機認証制度の検討、差額を埋めるもの
  商品の価値をどう伝え、共感をよぶか、農家と消費者の価格差をどう埋めるか

◆世界農業遺産認定　10年　次のステップへ◆